

3. 意識啓発の推進 3-1 情報提供の充実

◎現状／課題

(現 状)

- ごみの減量・資源化の推進には意識啓発が重要であることから、ごみ収集カレンダー、ごみ分別百科事典、チラシやパンフレットなどの配布、アプリの配信など様々な広報手段を活用し、ごみの分け方・出し方の情報を提供している。
- 平成 30 年度に実施した市民意識アンケート調査では、情報入手手段として「サイチョプレス」を活用していると答えた人は 18.3%、「ごみ分別アプリ」を活用していると答えた人は 2.8%といずれも低い結果となった。
- 外国語版（英語・中国語・韓国語・ロシア語）ごみの分け方・出し方を作成しており、簡易で分かりやすいと好評を得ている。

【関連事業】

- ・サイチョプレスの発行
- ・ごみ分別百科事典の配布
- ・ごみ収集カレンダーの全戸配布
- ・ごみ分別アプリ、ごみ分別検索サービスの配信
- ・ごみの分け方・出し方の外国語版の作成

(課 題)

- ターゲットに応じた広報手段の選定が必要であるとともに、広報媒体の存在周知にも注力する必要がある。
- 外国人への啓発が必要であるが、言語や習慣の違いから、適切に周知できるかが課題である。

◎今後の方向性

- 情報提供にあたっては、内容とターゲットに合致した広報媒体の検討を行い、より効果の高い広報手段を検討する。また、広報物の内容も、より訴求力が高く、分かりやすい内容となるよう見直しを行う。
- ごみの収集や分別といった重要な情報は、幅広い市民へ伝わるようきめ細やかな情報提供を心がける。
- 情報提供を目にする機会を増やすため、広報媒体自体の存在周知にも取り組む。
- 外国人在住者へのサービスの向上を図り、ごみに関する情報媒体の多言語化など、国際社会への対応を推進する。

3. 意識啓発の推進 3-2 環境教育の推進

◎現状／課題

(現 状)

- 環境教育の一環として、小学生・未就学児など低年齢を対象とした出前講座を実施しているほか、学習教材の作成、施設見学を行っている。施設見学は、小学生以外にも自治会等の団体のほか、施設主催の見学会も開催している。
- 低年齢層以外にも、大学生や専門学校生を対象とした説明会を開催し、ごみ出しマナーの向上を図っている。
- 平成30年度に実施した市民意識アンケート調査では、学生や若者における分別意識が低い結果となった。

【関連事業】

- ・市政さわやかトーク宅配便
(自治会などの団体に出前授業を実施、メニューに「ごみ減量・リサイクル」がある。)
- ・低年齢層向け出前授業の実施
- ・大学・専門学校での説明会
- ・生ごみの減量に関する講座
(生ごみ水切り講座、生ごみ堆肥化講座、野菜まるごとクッキング講座等)
- ・エコライフ講座
(市民団体に、専門知識を持った講師を派遣する。)
- ・ナジラテ屋での啓発
(イベント来場者にごみ出し等について分かりやすく説明する。)
- ・施設見学の実施

(課 題)

- 子どもや若者等のターゲットに応じた環境教育の手法や内容の充実を図る必要がある。

◎今後の方向性

- ごみの減量には、情報を伝え理解してもらうことが不可欠であることから、子どもや若者を中心とした環境教育を継続し、環境意識の向上を図る必要がある。
- 市が主催する講座について、幅広い視点でのごみ減量につなげていけるよう、内容の拡充について検討する。
- 施設の安全性や重要性を伝えることができる貴重な機会である施設見学については、内容の充実を図りながら、今後も継続する。